



6年生道徳の授業

昨日17日(月)の5時間目に、6年1組で道徳の研究授業が行われました。教科書の中の「ぼくたちの学校」というお話でした。

あらすじ:東日本大震災が起こった4週間後、学校が再開。史哉たちの通う学校は津波の被害にあったため、他の校舎にバスで通うことになった。校長先生は始業式で次のことを話してくれた。「隣の小学校の教室を借りてバスで登校します。みなさんが集まるところが永崎小学校です。」ということだった。バスの中で、1年生の子が急に泣いてしまう。泣くばかりで何も言わない。すると、佑大が急に大声で校歌を歌い始めた。「ぼくたちがいるところが学校だから、このバスの中も学校だね。」いつのまにかみんな、歌っていた。

今回の授業の「見つめる心(めあて)」は、「よりよい学校をつくっていくには」というものです。授業のはじめに、担任の城下先生が、「たすき渡し」の写真や運動会の準備写真など、6年生が学校のために動いてくれている姿を提示します。そして、「この姿に満足していますか?」と問うと、子供たちは「まだまだ」「もっとやれそう!」など問題意識を高めて授業に臨みました。教材の中の1年生が泣き出したときの主人公の気持ちを考えながら、「たてわり班活動でこんなことなかった?」と、担任が子供たちに問いかけます。



「そういえば入学式のときに教室に連れて行った子供が泣いたときは困ったな。」と共感していきました。そして「このバスの中も学校だね」という意味を考えたときに「安心できる場所が学校だから。」「心通わせることができるから。」など、自分の考えを出し合います。担任から「6年生としてよりよい学校をつくっていくにはどんな心が必要か。」と問いかけると、子供たちは「他の学年とも親しくし安心させながらリードしていく。」「積極的に責任ある行動をしたい。」など意見を活発に出し合いながら、考えを共有していきました。授業の終盤で、自分のこれからを考える場面では、「図書委員長は大変な仕事ではあるけれど、楽しいし大好きです。これからも帯西のために貢献したい。」など自分を見つめながら、それぞれが自分の「これから」についての意見を真剣に述べていました。

最後は、卒業生からのメッセージが動画で流され、「帯西の幸せの先頭に立って自分の活動を追求して行ってほしい。僕たちを超える6年生になってください。」という声に真剣に聴き聞いていました。

今回の道徳の授業について、子供たちが帰った後に、全職員で授業研究会を行いました。そこでは、皆で一人一人が授業への疑問を出し合ったり、改善点を述べ合ったりしました。1学期の6月の段階で、自分の意見を自由で素直に発言する子供たちの姿に、皆感心していました。そして、6年生としての成長を実感しました。このように一つの授業をみんなで考えることで、教師自身の学びとなり、力となります。これからも全職員で、子供たちの道徳性を高める授業づくりを考えていこうと思います。

今回は、子供たちと職員とで帯西イエローの心を醸成する方法について、しっかり考えることができる研究授業となりました。今回の授業は6年部でも共通実践を行い、6年生全員の心が育ちました。6年1組の皆さん、貴重な道徳の授業を共有させていただき、ありがとうございました。